

湊江小学校 外国語・外国語活動研究通信

第6号

令和2年11月

今年度6回目になる外国語・外国語活動研究の授業を久田裕美教諭が行いました。前回に引き続き、体育館で授業を行いました。協議会では、低学年の外国語活動の目標等について活発な意見交流を行いました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:2年1組 担任 久田 裕美 教諭

単元名:Head, Shoulders, Knees and Toes (3/3)

指導講評:外部講師

〈授業の様子・板書・協議会の様子〉



協議会では、研究経過報告と久田教諭の自評があり、本時についての協議へと続きました。

〈研究経過報告〉

外国語活動は、学習指導要領では3学年から始まるとされている中で、低学年分科会で、どこをゴールとするか、どう評価するかを考えながら、手探りでやってきた。低学年分科会として、以下の3つを外国語活動の目標として考えた。

- ・あいさつや遊びを通して、英語のリズムや音声に慣れ親しむ。
- ・外国語表現を聞き取ったり、言ったりする活動に楽しく参加する。
- ・外国語に関心をもち、興味をもってかかわろうとする態度を培う。

児童の実態としては、音楽やリズムに合わせて体を動かすことが好きな児童が多く、外国語への興味も強い。また、外国語を使ってみたい、話してみたいという意欲も高い。繰り返し表現に慣れさせ、外国語と日本語の音声の違いに気付くことができるように指導してきた。

・表現を繰り返し使うための工夫

初めて扱う英語表現については、歌やチャンツ、ゲーム活動で繰り返すことで、言語材料を増やししながら表現に慣れ親しむことができるようにした。また、児童が会話やゲームに取り組む前にデモンストレーションを行うことで、学習活動への意欲を喚起し、安心して楽しく活動に取り組めるようにした。

・振り返りカードの工夫

振り返りカードを毎時間確認し、自己評価の低い児童には前向きな声掛けを行うようにし、児童の意欲を高めた。また、歌や大切な表現等は繰り返し授業の中に取り入れるようにし自信に繋がるようにした。

・外国語に慣れ親しむための工夫

低学年として、学習に取り組む前に歌やアクティビティを取り入れることで、外国語活動への気持ちの準備ができるようにした。

〈授業者自評〉

子供たちは朝から緊張していたようだが、授業が終わって、「楽しかった」と言っていてよかった。

もともと外国語への意欲がとても高い児童が多く、その気持ちをそぎたくないという思いが強かった。できるだけ何回も単語を言えるように、気付いたらたくさん言えていた、というような授業になるように考えた。

〈研究協議〉 ◎良かった点 △課題点 □質問

◎雰囲気、場面、環境づくりがよかったので、子供たちが意欲的に取り組んでいた。

◎表現を繰り返し使うための工夫としてのパターンがたくさんあってよかった。

△日本語の説明が多かった。伝わっていると思われる場面でも、英語の後、日本語で説明していた。子供は、英語の後で説明してもらえるとわかると、英語をよく聞いて考えるということをしなくなるのではないか。

ロボットゲームについて(1グループ6人で活動)

◎準備が大変だったと思うが、子供たちが楽しく取り組んでいた。

△活動グループの人数設定が難しい。6人では、発話できていない子もいたのではないか。しかし、わからない子にとっては、複数での活動によって、安心して取り組むことができたのではないか。

△体のパーツを並べる役の子供たちが発話する機会がほとんどなかった。

→(案) パーツを並べておくのではなく、手元に持たせておく。はっきり発音しないと出さない、などのルールをつくる。

(案) ジェスチャーで伝える、などクイズの要素を取り入れる。子供の言いたい気持ちが高まる。

⇒(2学年から) 単語、発音の定着は狙っていない。様々なものに触れさせたい、出合わせたい、という考えからの提案授業。案として出てきたような形も考えたが、児童の実態を踏まえ検討してみた結果、今回の形を採用した。

〈指導・講評〉

指導主事より

活動が活発に行われていて、とても楽しそうだった。先生方の指導力が向上していると感じた。

指導主事より

低学年の授業を見るのは初めてだったが、こうやって低学年→中学年→高学年→中学校とコミュニケーション力が構築されていくのだと感じた。楽しい活動を意識して取り組まれているのがわかった。

外部講師より

・2年生の実態に合った、とても楽しい授業だった。

◎低学年における外国語活動の目標について

・英語の素地を育む。英語って楽しい、という気持ちを育てる。

・英語と日本語の響きの違いを感じる。英語の発音を楽しむ。

今回の授業では、[z]音が多かった。摩擦音[z]と破裂音[dʒ]の音の違い。

ALTに発音をしてもらって、ネイティブの発音に触れさせる。発音を楽しませる。

もっと英語を話したい、もっといい発音で話したい、という気持ちが育まれるのではないか。

◎絵本の活用

絵本のコンテンツで心を揺らす

絵本の選択 Prediction: 展開が予測されるもの(パターン化)

Guessing: 推測して読み進めるもの

Imagination: 想像力を働かせるもの

Creation: 自ら創造していくもの

おすすめの絵本

Imagination: 『Blackout』 John Rocco

Creation : 『The Red Book』 Barbara Lehman

本研究授業で使用した絵本 『A Teddy Bear』(2000年) 中本幹子、掛川日出子 アプリコット出版